

鼓山にて、閩中の地名なるも有るべからず

多般竹詳錄

此竹、每節極めて多般、故に名づく

正誤

和漢三才圖會云、虎攢竹是暴節竹乎、

按に、暴節竹は俗にこぶ竹といふ、即筇竹にして、皇朝にかつてなきもの也、

本草一家言云、鶴膝竹一名佛面竹、一名鷄臠竹、倭名布袋竹、

按に、鶴膝竹と佛面竹とは、もと兩種にて、また布袋竹とも異なり、然るを今三種混同して一つとなすものは誤れり、又雞臠竹の名は、廣群芳譜にみえたり、これも鶴膝竹の一名にして、布袋竹にあらず、

本草綱目啓蒙云、ホテイ竹ハ漢名人面竹ト本草彙言云ヘリ、

按に、人面竹は通雅によるに佛面竹の小なるものなれば、布袋竹とは別種なり、其狀布袋竹は毎節擁腫する事人面の如く、或は鶴膝の如くにして人面竹は兩節の間突起する事人面の如く、また佛面の如きものなれば、もとより一種にはあらざる也、

古今要覽稿草木佛面竹

佛肚竹

佛面竹は和漢通名にて、一名を人面竹、一名を鬼面竹、一名を佛肚竹、一名を佛眼竹といひ、また俗名を拉母七孤といふ、下野國茅橋邊の竹林丹州及竹圖び伊豫國吉田領大乘寺境内にありと木昆蟲考いへり、其狀大小のたがひありといへ共すべて地上一二節或は三四節より、左右邪正兩節相對して、大龜甲紋の如く、中間高く起りて、頗る人面のごとく、また佛肚の如し、方于魯が墨譜に毎節間二句一聯の七佛偈を鐫成せしは、即此竹にて西土にも至て稀なりと丹洲圖竹いへり、